

# 倫理プリント

# 朱子・王陽明

儒学の確立者



## (i) 儒学の確立

漢(前 202)の頃 儒教の経典が数多く作成… (代表例) [1] :『大学』『中庸』『論語』『孟子』  
[2] :『易経』『礼記』『詩経』『書経』『春秋』



これらを研究する学問が発達=[3] ]

後 136 儒学が官学化 … 皇帝の専制支配を擁護する思想とみなされ、国家公認の下で儒学が教授されるように

## (ii) 儒家思想の発展 -朱子学-

朱子学 … 儒家思想を通じて、宇宙生成の原理や人間の本性を究明しようとする学問

# 朱子

中国(1130~1200)

朱子学の大成者



Keyword 理気二元論

- ・南宋の儒学者。厳格な教育を受け 18 歳の時に進士(科挙の最高試験)に合格
- ・50 年にわたる官界での活躍とともに、儒学者としても思想を深める
- ・飢饉に備える食糧管理方法を考案し、飢餓に苦しむ人をゼロにする実績を残す

## ■ 朱子の思想 [4] = 万物は「理」と「気」の結合によって成り立つ

※アリストテレスの形相と質料のイメージと似ている

**理** 万物に内在する原理・原則

人間に当てはめると…  
[5] ]や[6] ]といった善い心  
これは誰もが持っている！※孟子の性善説を継承

現実の人間

[8] ]…人間の本性は皆同じ「理」からなる  
せつかく同じ「理」をもって生まれてきたのに  
個人差がある「気」によって怠けや欲望を引き起こし※1  
本来の善い性質※2 が歪んでしまう！

**気** あらゆる事物の運動を形成する素材・物質

人間に当てはめると…[7] ]  
外界との接触により、私情や欲望を起こし  
激しく変化・変動するもの

※1 悪を為す性質=[9] ]の性  
※2 本来の善い性質=[10] ]の性

この矯正の為には **学問に勤むこと!**



## ■ 朱子学の目的 → 悪を為す気質の性を、修養によって本然の性へと矯正していくこと。

- ・ [11] ]: つつしみによって人欲を捨てる。欲望の制御。 → 理と一体化した理想的な人格
- ・ [12] ]: 読書などで万物に宿る知識をきわめる。 = [13] ]



これらの努力によって、天に与えられた人間本来の性質との一致を目指す。 = 天人合一

物の理を窮め、知を完成させること。 = [14] ]

⇒ 孔子の理想であった君子による統治 (= 修己治人) を実践できる。

### (iii) 朱子学への批判 -陽明学-

朱子学は大成したのち、国の正式な宗教として認められ、科挙の試験にも採用されることになる。しかしこれは、純粋な道徳学問から単なる受験科目の1つになってしまったということであり、道徳について考えるというよりも、暗記科目の一種と化してしまうということ。形骸化した朱子学への反発として陽明学が誕生する。

## 王陽明 | 中国(1472~1528) 主著『伝習録』

- ・明代の儒学者。27歳で進士(科挙)に合格。
- ・朱子学を学ぶも疑問を抱き、より実践的な陽明学を確立
- ・明軍の指揮官として優秀な戦果を残し、軍人としての実績もあった人物

陽明学の祖



Keyword 致良知

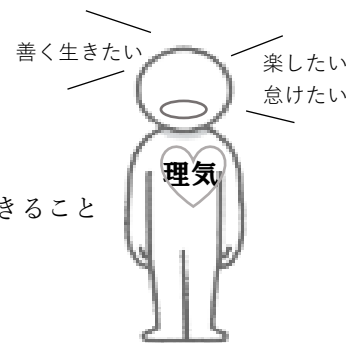
王陽明は、人間の心を無視し、規範や秩序に沿った生き方を徹底しては、自由な思考が阻害されると考えた。そもそも心が2つあるような考え方はおかしく、人間を「理」と「気」からなると説いた朱子学を批判。人間の本质(理)は人間の心そのものではないか? = [15]

心の中に悪い部分があるのも当たり前。それを抑え込むのではなく、善い部分をどんどん伸ばす方が有効である!と考えた。

### ■ 陽明学の目的 → 生まれながらに持つ道徳心を実践によって発揮していくこと。

- ・ [16] : 生まれながらにもつ、善悪を判断する心 (=良知) のままに生きること  
⇒ このような実践(行為)により、良知は実現される。

↑ [17]



朱子学が官僚エリートの学問という位置づけだったのに対し、陽明学は誰もが良知をもつ聖人であるという点で労働者や庶民の幅広い層へ受け入れられた。

朱子学・陽明学は、共に江戸時代の日本へも伝播し、江戸幕府の封建制度(タテ社会)の構築を正当化した。

### + α ソクラテスとの比較

知行合一といえばソクラテスも同じ主張をしていたが、両者のニュアンスはやや異なるので注意。

- \* ソクラテス流の知行合一 … 善に関する知識があれば、自然と行いが善いものへなっていく
  - \* 陽明学流の知行合一 … 良知を磨き、その心を信じて実践(行動)を重ねることで、善が実現する
- このように、陽明学の方がやや積極的・能動的な知行合一を説いている。

### Column 王陽明の名言から学ぶ

人生の大病はただこれ一<sup>ごう</sup>の傲<sup>ごう</sup>の字なり。謙は衆善の基にして、傲は醜悪の魁<sup>さきがけ</sup>なり。

人は自分の考えを絶対に正しいと思ひ込み、他者の考えには耳を傾けないといった態度をとることがある。

こういった傲慢さは、他者の存在を否定するだけでなく、自分が生きる世界も狭めてしまう。

自分の人生の可能性を広げ、より善く生きるためにも、常に他者から学ぼうとする「謙虚さ」が必要不可欠である。

(『人生を変える哲学者の言葉 366』 339 ページより抜粋)

# 倫理プリント

# 朱子・王陽明

儒学の確立者



## (i) 儒学の確立

漢(前 202)の頃

儒教の経典が数多く作成… (代表例) <sup>[1]</sup> **四書** ]:『大学』『中庸』『論語』『孟子』

<sup>[2]</sup> **五経** ]:『易経』『礼記』『詩経』『書経』『春秋』

これらを研究する学問が発達=<sup>[3]</sup> **儒学** ]

後 136

儒学が**官学化** … 皇帝の専制支配を擁護する思想とみなされ、国家公認の下で儒学が教授されるように

## (ii) 儒家思想の発展 -朱子学-

**朱子学** … 儒家思想を通じて、宇宙生成の原理や人間の本性を究明しようとする学問

# 朱子

中国(1130~1200)

朱子学の大成者



Keyword **理気二元論**

- ・南宋の儒学者。厳格な教育を受け 18 歳の時に進士(科挙の最高試験)に合格
- ・50 年にわたる官界での活躍とともに、儒学者としても思想を深める
- ・飢饉に備える食糧管理方法を考案し、飢餓に苦しむ人をゼロにする実績を残す

### ■ 朱子の思想 <sup>[4]</sup> **理気二元論** ] = 万物は「理」と「気」の結合によって成り立つ

※アリストテレスの形相と質料のイメージと似ている

**理** 万物に内在する原理・原則

人間に当てはめると…

<sup>[5]</sup> **理性** ]や<sup>[6]</sup> **道徳心** ]といった善い心  
これは誰もが持っている! ※孟子の性善説を継承

現実の人間

<sup>[8]</sup> **性即理** ]…人間の本性は皆同じ「理」からなる  
せつかく同じ「理」をもって生まれてきたのに  
個人差がある「気」によって怠けや欲望を引き起こし<sup>[1]</sup>  
本来の善い性質<sup>[2]</sup>が歪んでしまう!

※1 悪を為す性質=<sup>[9]</sup> **氣質** ]の性

※2 本来の善い性質=<sup>[10]</sup> **本然** ]の性

この矯正の為には**学問に勤しむこと!**



**気** あらゆる事物の運動を形成する素材・物質

人間に当てはめると…<sup>[7]</sup> **肉体** ]

外界との接触により、私情や欲望を起し  
激しく変化・変動するもの

### ■ 朱子学の目的 → 悪を為す氣質の性を、修養によって本然の性へと矯正していくこと。

・<sup>[11]</sup> **居敬** ]:つつしみによって人欲を捨てる。欲望の制御。

・<sup>[12]</sup> **窮理** ]:読書などで万物に宿る知識をきわめる。

理と一体化した理想的な人格

=<sup>[13]</sup> **聖人** ]



これらの努力によって、天に与えられた人間本来の性質との一致を目指す。 = **天人合一**

物の理を窮め、知を完成させること。 = <sup>[14]</sup> **格物致知** ]

⇒ 孔子の理想であった君子による統治 (= **修己治人**) を実践できる。

### (iii) 朱子学への批判 -陽明学-

朱子学は大成したのち、国の正式な宗教として認められ、科挙の試験にも採用されることになる。しかしこれは、純粋な道徳学問から単なる受験科目の1つになってしまったということであり、道徳について考えるというよりも、暗記科目の一種と化してしまうということ。形骸化した朱子学への反発として陽明学が誕生する。

## 王陽明 | 中国(1472~1528) 主著『伝習録』

- ・明代の儒学者。27歳で進士(科挙)に合格。
- ・朱子学を学ぶも疑問を抱き、より実践的な陽明学を確立
- ・明軍の指揮官として優秀な戦果を残し、軍人としての実績もあった人物

陽明学の祖



Keyword 致良知

王陽明は、人間の心を無視し、規範や秩序に沿った生き方を徹底しては、自由な思考が阻害されると考えた。そもそも心が2つあるような考え方はおかしく、人間を「理」と「気」からなると説いた朱子学を批判。人間の本质(理)は人間の心そのものではないか? = [15 心即理]

心の中に悪い部分があるのも当たり前。それを抑え込むのではなく、善い部分をどんどん伸ばす方が有効である!と考えた。

■ **陽明学の目的** → 生まれながらに持つ道徳心を実践によって発揮していくこと。

- ・ [16 致良知]: 生まれながらにもつ、善悪を判断する心 (=良知) のままに生きること  
⇒ このような実践(行為)により、良知は実現される。

↑ [17 知行合一]



朱子学が官僚エリートの学問という位置づけだったのに対し、陽明学は誰もが良知をもつ聖人であるという点で労働者や庶民の幅広い層へ受け入れられた。

朱子学・陽明学は、共に江戸時代の日本へも伝播し、江戸幕府の封建制度(タテ社会)の構築を正当化した。

#### + α ソクラテスとの比較

知行合一といえばソクラテスも同じ主張をしていたが、両者のニュアンスはやや異なるので注意。

- \* ソクラテス流の知行合一 … 善に関する知識があれば、自然と行いが善いものへなっていく
  - \* 陽明学流の知行合一 … 良知を磨き、その心を信じて実践(行動)を重ねることで、善が実現する
- このように、陽明学の方がやや積極的・能動的な知行合一を説いている。

#### Column 王陽明の名言から学ぶ

人生の大病はただこれ一<sup>ごう</sup>の傲<sup>ごう</sup>の字なり。謙は衆善の基にして、傲は醜悪<sup>さきがけ</sup>の魁<sup>ごう</sup>なり。

人は自分の考えを絶対に正しいと思ひ込み、他者の考えには耳を傾けないといった態度をとることがある。

こういった傲慢さは、他者の存在を否定するだけでなく、自分が生きる世界も狭めてしまう。

自分の人生の可能性を広げ、より善く生きるためにも、常に他者から学ぼうとする「謙虚さ」が必要不可欠である。

(『人生を変える哲学者の言葉 366』 339 ページより抜粋)